

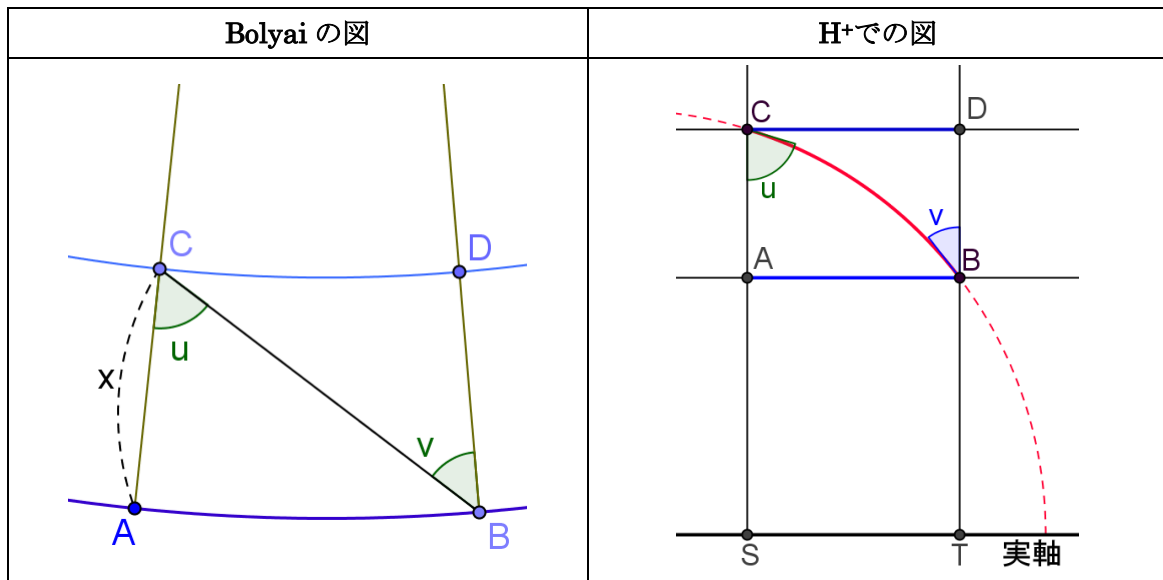
§ 28. 「互いに等距離にある極限円上の 対応する弧長の比」

(§ 24 の e^{-kx}) と、角度の関係

互いに等距離にある極限円があり, A, B と C, D は各々その上の2点で, AC, BD はその軸とする. このとき $\overline{AC} = x, \angle ACB = u, \angle CBD = v$ とすると,

$$\frac{\overline{CD}}{\overline{AB}} = e^{-kx} = \frac{\sin v}{\sin u}$$

(但し x は「直線に沿って測った距離」, $\overline{AB}, \overline{CD}$ は「極限円に沿って測った距離」とします)



[証明] B,C から軸 AC,BD に下ろした垂線の足をそれぞれ F,G とする. §25 の定理 (正弦定理) より,

$$\frac{\textcircled{O}FB}{\textcircled{O}BC} = \sin u, \quad \frac{\textcircled{O}GC}{\textcircled{O}BC} = \sin v$$

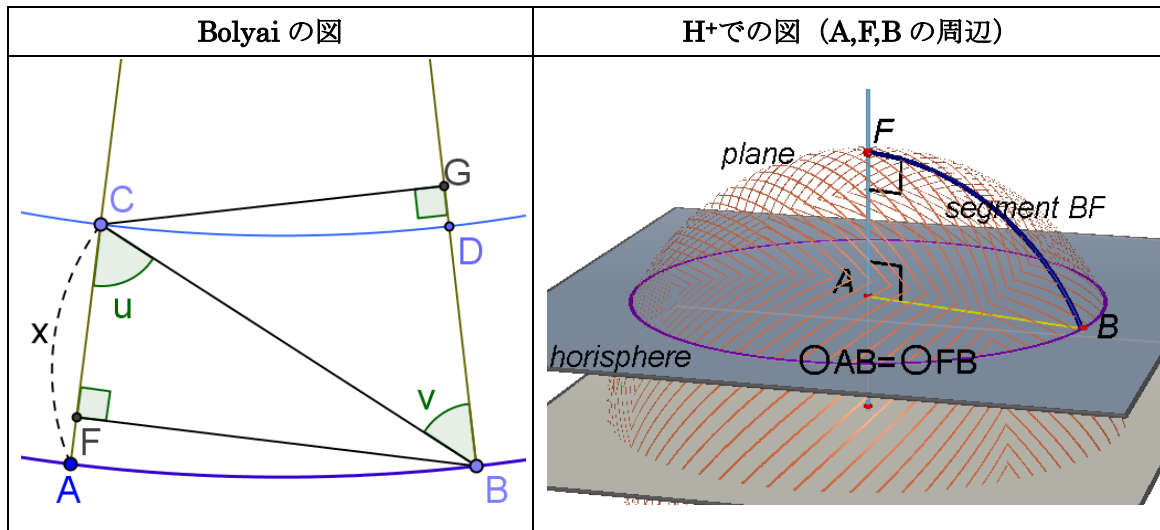
$$\therefore \frac{\textcircled{O}GC}{\textcircled{O}FB} = \frac{\sin v}{\sin u} \dots \textcircled{1}$$

しかし, $\textcircled{O}FB$ と $\textcircled{O}AB$ は同じ円なので (右下図), $\textcircled{O}FB = \textcircled{O}AB$. 同様に $\textcircled{O}GC = \textcircled{O}DC$. 故に ①より,

$$\frac{\textcircled{O}DC}{\textcircled{O}AB} = \frac{\sin v}{\sin u} \dots \textcircled{1}'$$

さらに「極限球上では, ユークリッド的」で, 「円周と直径の比は π (≈ 3.14)」となるから,

$$\frac{\sin v}{\sin u} = \frac{\textcircled{O}DC}{\textcircled{O}AB} = \frac{2\pi \cdot \overline{CD}}{2\pi \cdot \overline{AB}} = \frac{\overline{CD}}{\overline{AB}}$$



[H⁺モデルによる証明] 2つの極限円は、実軸と平行とする. このとき、双曲的直線 BC は、実軸上に中心を持つユークリッド的円だから、その中心を O とすると、

$$\angle COS = u, \angle TOB = v$$

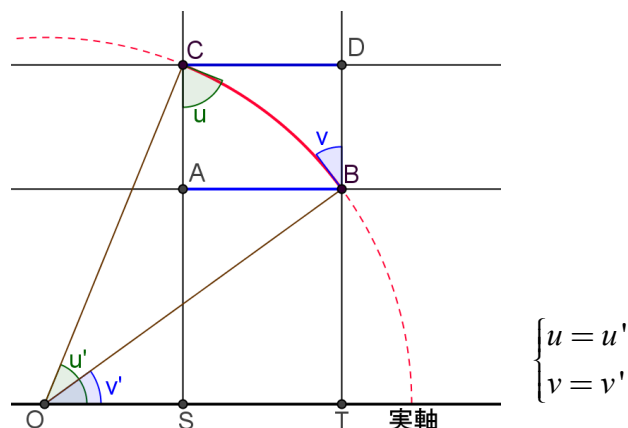
ゆえに、

$$\frac{\sin v}{\sin u} = \frac{\sin \angle TOB}{\sin \angle SOC} = \frac{\frac{BT}{OB}}{\frac{SC}{OC}} = \frac{BT}{SC} = \frac{SA}{SC} \dots \textcircled{1}$$

H⁺における距離の定義より 「 $\overline{AB} = \frac{AB}{SA}$, $\overline{CD} = \frac{CD}{SC}$ かつ $OB=OC$ 」 だから、

$$\frac{\sin v}{\sin u} = \frac{SA}{SC} = \frac{\overline{CD}}{\overline{AB}}$$

(ただし \overline{AB} は A と B の極限球上の双曲的距離を、SA など bar の付いてないものはユークリッド的距離を表すとします.)



[proof on H.ggb](#)

[参考] Bolyai は、'モデル'を作るという発想は持っていませんでしたが、§ 24 とこのセクションの結果と微分方程式を使うと、H⁺における直線が、ユークリッド的円となることも証明できます. [equation of line.pdf](#)